

郷土への扉

The gateway to local history

霧島田口にある霧島民芸村の建物が、4月に鹿児島県の有形文化財(建築物)に指定されました。霧島神宮参道内のロータリーから西側に見える巨大な建物で、現在は民芸品店が営業しています。今回は霧島民芸村についてご紹介します。

教育研修施設として建設

霧島民芸村の建物が建てられたのは昭和15(1940)年とされています。学校教員研修施設として終戦まで使用され「研修館」と呼ばれていました。同年は*1紀元2600年に当たり、全国的に日本国の始まりに関心が高まっていました。同時に戦時下で、学校教育制度が大きく変わるタイミングでもありました。天孫降臨という日本創生神話の伝わる霧島神宮近くで、天皇や国の在り方を教員に再教育する場として特別な意図があったと推測できます。戦後は県が管理し、各種会議に使用されていました。その後、旧霧島

町の所有を経て民間に売却されてから平成7年までは宿泊施設として活用されていました。

建物の特徴と評価

霧島民芸村には、巨大な展示販売棟や旧遥拝殿、工房棟、施設入口となる案内導入棟の四つの建物があります。このうち、展示販売棟、旧遥拝殿、工房棟の3棟が文化財に指定されました。

近現代の寝殿造 霧島民芸村

中央に存在する展示販売棟は、木造建築では県内最大級の大きさ(28・2m×14・6m)です。*2寝殿造に做った建て方で、屋根には*3鉄平石という石が使用されています。鉄平石を屋根に使用した建物は、県内では他にありません。展示販売棟には、駐車場からは見えない裏の部分(建物の北側)に巨大な車寄せ(写真左)があり、見る人を圧倒します。展示販売棟から渡り廊下で北西に向かうと、旧遥拝殿と呼ばれる別棟があります。研修館建築の際、昭和

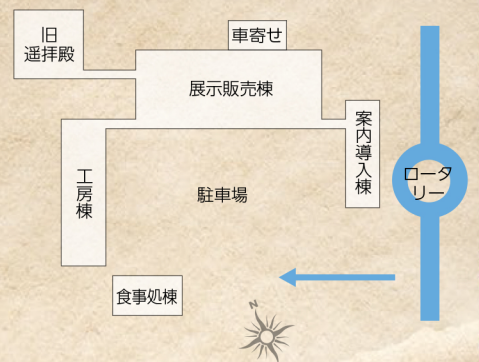
天皇から下賜された床柱2本を、正面壇上に据えて、天皇や御所へはるかに思いをはせる場所とされたことに由来します。40畳敷きの畳床で、現在は工芸品の展示空間となっていますが、元々は先述したように特別な空間であるため、素材や細工の良さが残っています。展示販売棟の南西にある細長い建物は、現在は陶芸や木工などの作業空間として使用されている工房棟で



展示販売棟北側にある車寄せ 中央に存在する展示販売棟

*1 初代天皇である神武天皇が即位して2600年となる年。皇紀(こうき)とも。全国的に記念行事が多くあった。
 *2 古代の上層住宅(貴族の住宅)の建築様式。
 *3 長野県の諏訪・佐久地域に広く分布する安山岩の一種。同地域では屋根材として使用されていた。霧島民芸村の鉄平石は長野県福沢山のものと伝わっている。

建物配置図



す。以前は畳敷きの小部屋が並んだ宿泊所で、展示販売棟などと同時期に建てられたものとされます。霧島民芸村は、次の理由で県の有形文化財に指定されました。

- ・戦時下の国民学校教育政策を反映した希少な建築群である。
 - ・戦前の木造公共建築物として県内で最大規模である。
 - ・寝殿造を規範とした貴重な建造物である。
 - ・基本的建築技術、装飾造形技術が優れている。
- 案内導入棟や南側にある食事処棟は、後に建てられたと考えられ、文化財指定からは外れています。これまでほとんど知られていない貴重な建築物です。ぜひ見学に訪れてはいかがでしょうか。

(文責 小)